

## ○ シラバス参照

講義名	遺伝学英語筆記表現演習	
講義開講時期	後期 2nd Half	
基準単位数	1	
代表曜日		代表時限
コース等	49 遺伝学コース	
授業を担当する教員		
成績評価区分 Grading Scale	A, B, C, Dの4段階評価 Four-grade evaluation	
レベル Level	Level 3	
力量 Competence	専門力 Academic expertise、国際力 Global competence	

## 担当教員

氏名

◎ 明石 裕

授業の概要	文章によるコミュニケーション能力は科学者にとって重要な資質の1つであるが、教育の場ではしばしば軽視されがちである。作文能力を鍛えることは、自身の研究の実行能力と発信能力の両面を向上させることにもつながる。この授業では、講義、作文課題、学生による発表と議論を通して、まずは「良い文章」とはどのようなものかを定義し認識することに焦点を当て、次にそのコンセプトを自身の作文の中に取り入れることを目的とする。科学研究および科学論文執筆におけるAIツールの効果的な活用についても重点を置く。この授業は、英語のネイティブ・ノンネイティブ両方に向けたものになるよう計画されている。
到達目標	講義、作文課題、議論を通して、サイエンス・コミュニケーションを目的とした文章中の良い点・悪い点を認識する能力を身につける。この能力は継続的に自身の文章を見直し改善していくために必要不可欠である。
成績評価方法	この授業の質は学生からの寄与の強さに大きく依存する。成績は課題と授業への参加・貢献に基づいて決定する。
授業計画	まずは講義と読解、作文の実習を通して「良い」科学的な文章を定義することから始める。優れた文章にはどのような共通の特徴があるのか？伝わりにくい文章にある共通の問題点とはどのようなものか？授業では幅広い対象（特に異なる専門分野の科学者）に向けた文章に焦点を当て、いくつかの近年行われた大きな研究の概要を題材とする。加えて学生には、自身の研究分野に関連した重要な論文の概要を作成・提出してもらい、その概要の良い点や改善の余地について皆で議論をしよう。次に学生自身の研究を伝えることに焦点を当て、優れた研究概要やポスターを作成するための方法について学ぶ。学生の作成した文章とそれを用いた議論がこの授業の中心となる。
実施場所	Monday 15:30-17:10 Jan. 18 Jan. 25 Feb. 1 Feb. 8 Feb. 15 Feb. 22 Mar. 1 Mar. 8
使用言語	遺伝学コース
教科書・参考図書	英語
	Duke Graduate School Scientific Writing Resource <a href="https://sites.duke.edu/scientificwriting/">https://sites.duke.edu/scientificwriting/</a>  Science Research Writing: For Native and Non-native Speakers of English World Scientific Pub Co Inc; 2nd edition (March 12, 2020) ISBN-13 : 978-1786347831  English for Academic Research: Writing Exercises: Writing Exercises Springer; 2015 edition (December 14, 2015) ISBN-13 : 978-1461442974

他コース学生が履修する際の注意事項	総研大生はどなたでも受講可能ですが、講義・ディスカッションは遺伝研で行われますので、インターネットでの受講はできません。
講義に関する問い合わせ先	hiakashi@nig.ac.jp